

医学教育分野別評価
東海国立大学機構 名古屋大学医学部医学科
年次報告書
2022年度



MAKE NEW STANDARDS.



東海国立
大学機構



NAGOYA
UNIVERSITY

1. 使命と学修成果	3
1.1 使命	3
1.2 大学の自律性および教育・研究の自由	5
1.3 学修成果	6
1.4 使命と成果策定への参画	8
2. 教育プログラム	9
2.1 教育プログラムの構成	9
2.2 科学的方法	11
2.3 基礎医学	13
2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学	14
2.5 臨床医学と技能	15
2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間	17
2.7 教育プログラム管理	18
2.8 臨床実践と医療制度の連携	19
3. 学生の評価	21
3.1 評価方法	21
3.2 評価と学修との関連	22
4. 学生	24
4.1 入学方針と入学選抜	24
4.2 学生の受け入れ	25
4.3 学生のカウンセリングと支援	26
4.4 学生の参加	28
5. 教員	29
5.1 募集と選抜方針	29
5.2 教員の活動と能力開発	30
6. 教育資源	32
6.1 施設・設備	32
6.2 臨床実習の資源	34
6.3 情報通信技術	35
6.4 医学研究と学識	37
6.5 教育専門家	38
6.6 教育の交流	40
7. 教育プログラム評価	42
7.1 教育プログラムのモニタと評価	42
7.2 教員と学生からのフィードバック	44
7.3 学生と卒業生の実績	46
7.4 教育の関係者の関与	47
8. 統轄および管理運営	49
8.1 統轄	49
8.2 教学のリーダーシップ	50
8.3 教育予算と資源配分	51
8.4 事務と運営	52
8.5 保健医療部門との交流	53
9. 継続的改良	54
＝根拠資料一覧＝	56

医学教育分野別評価 東海国立大学機構 名古屋大学医学部医学科 年次報告書 2022年度

医学教育分野別評価の受審2021（令和3）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 32
本年次報告書における医学教育分野別基準日本版 Ver. 2. 34

はじめに

本学医学部医学科は、2021年度に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022年2月1日から7年間の認定期間が開始した。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 34を踏まえ、2021年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要綱に則り、実地調査が実施された2021年6月から本報告書提出年度である2022年3月までを対象としている。また、重要な改定のあった項目を除き、医学教育分野別基準日本版 Ver. 2. 34の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 名古屋大学の学術憲章の中で述べられている「勇気ある知識人」は、関係者に周知されている。

改善のための助言

- ・ 使命の中で、卒後教育の準備や生涯学習への継続、さらに社会的責任についてより明確に定めるべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部は理念および3ポリシー（ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）を定めている。
- カリキュラム評価(IR)委員会では、理念およびディプロマポリシーで定める学修成果の内容が達成されているか検証するために、学生に対するディプロマポリシー達成状況に関する自己評価を2021年度より開始している。

今後の計画

- 今後、カリキュラム評価(IR)委員会では、理念および3ポリシーにて定める本学の

使命が達成されているかを検証するために、在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を実施していく。

- また、その結果や、国内外の社会の変化を考慮し、大学の認証評価やJACMEの分野別認証評価のタイミングなどに合わせて、5～10年ごとに学部・学部の使命を見直すことを検討する。その際には、理念および3ポリシーの中で、卒業教育の準備や生涯学習への継続、さらに社会的責任についてより明確に定めることを考慮する。

改善状況を示す根拠資料

資料8 2021年度学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価

資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施）

資料10 2022年度卒業生調査（案）（2022年9月実施予定）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部の理念の全ての項目で医学研究について述べられている。

改善のための示唆

- ・ 医学部の理念の中で国際的健康、医療の観点について、さらに明確にすることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部では理念の4項目の中に、「医学研究および研究者の育成を目指すこと」、「世界の医療水準の向上と世界的に開かれた医学研究及び医療システムの構築を目指すこと」を定めている。
- カリキュラム評価(IR)委員会では、理念の内容が達成されているかを検証するために、学生に対するディプロマポリシー達成状況に関する自己評価を2021年度より開始している。

今後の計画

- 研究医の育成のための推薦入試が適切に機能しているか、入試枠ごとの学生や卒業生の実績の検証を行う。
- 今後、カリキュラム評価(IR)委員会では、理念および3ポリシーにて定める本学の使命が達成されているかを検証するために、在校生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を実施していく。
- また、その結果や、国内外の社会の変化を考慮し、大学の認証評価やJACMEの分野別認証評価のタイミングなどに合わせて、5～10年ごとに学部・学部の使命を見直すことを検討する。その際には、医学部の理念の中での国際的健康、医療の観点について、さらに明確にすることを考慮する。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部長のもとに医学部医学科教育委員会を組織して、自律性を持って教育施策を実施している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 医学部医学科教育委員会では、カリキュラム評価（IR）委員会と合同で、2023年度新カリキュラムについてのアンケート（2022年3月）を学生・教員向けに実施し、学生や教員の意見を踏まえながら新カリキュラムの作成にあたっている。
- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より授業評価、学生向け学修状況調査(2022年3月)、教員向け教育状況調査を開始しており、これらの結果を医学部医学科教育委員会に提供している。医学部医学科教育委員会では、それらの調査結果も踏まえてカリキュラムの作成や改善について議論している。

今後の計画

- 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会の学生委員をそれぞれ別選定するなど、医学部医学科教育委員会の独立性を高める。
- 2022年度にはモデル・コア・カリキュラムの改定が予定されており、医学部医学科教育委員会および各実施委員会にて新しいモデル・コア・カリキュラムに沿ったカリキュラムの作成にあたっていく。
- 2023年度以降の新カリキュラム策定にあたっては、アンケート調査に加えて、公開討論会など、広く教員と学生の意見を求める機会を確保し、進めていくことを予定している。

改善状況を示す根拠資料

- 冊子資料① 2022年度名古屋大学医学部医学科教科案内2022年度（SYLLABUS）
- 資料19 学生向け新カリキュラム（2023年度）に関するアンケート（2022年3月実施）
- 資料1 2021年度医学部医学科教育委員会 議事録（～2022年7月）
- 資料3 2021年度医学部カリキュラム評価（IR）委員会議事録（～2022年7月）
- 資料5 2021年度学生向け授業評価調査（2021年11月～2022年5月）
- 資料6 2021年度学生向け学修状況調査（2022年2月実施）
- 資料7 2021年度教員向け教育状況調査（2022年3月実施）
- 資料20 2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会（2022年5月～7月）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会が現行カリキュラムに関する検討を行っている。

改善のための示唆

- ・ 特定の科目、特に臨床実習での教育の向上のために最新の研究結果を利用することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

1.3 学修成果

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学修成果として、ディプロマポリシーを定めている。

改善のための助言

- ・ 学修成果を学生、教員をはじめ、全ての教育関係者に十分に周知すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部ではディプロマポリシーとして学修成果を定めている。
- カリキュラム評価（IR）委員会では、学修成果が適切に達成されているかを検証するために、学生に対するディプロマポリシー達成状況に関する自己評価を2021年度より開始している。上記自己評価は、ディプロマポリシーに関する学生への周知の機会ともなっている。
- また、カリキュラム評価（IR）委員会では2021年度（2022年3月）に教員向けに教育状況調査を実施し、その参考資料として上記の「学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価」結果を使用し、教員への周知も努めている。
- カリキュラム評価（IR）委員会と学生研究会と共同で、2022年3月～4月に新入生アンケートを実施し、アンケート内にディプロマポリシー10項目を掲載し新入生への周知も努めている。

- シラバス・学生便覧への従来の冊子体への掲載へのほか、一般選抜学生募集要項にも掲載、入学生募集冊子「医学への道」はディプロマポリシーのホームページ上のURLを掲載している。

今後の計画

- 今後、カリキュラム評価(IR)委員会では、学修成果が適切に達成されているかを検証するために、在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を実施していく。
- また、その結果や、国内外の社会の変化を考慮し、大学の認証評価やJACMEの分野別認証評価のタイミングなどに合わせて、5～10年ごとに学部使命を見直すことを検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料8 2021年度学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価

資料7 2021年度教員向け教育状況調査（2022年3月実施）

資料18 2022年度新入生アンケート（2022年4月実施）

冊子資料① 2022年度名古屋大学医学部医学科教科案内（SYLLABUS）

冊子資料② 2022年度名古屋大学医学部医学科学生便覧

冊子資料③ 2023年度名古屋大学医学部医学科案内 医学への道

資料30 令和4年度一般選抜学生募集要項（ディプロマポリシー掲載ページ）

資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施）

資料10 2022年度卒業生調査（案）（2022年9月実施予定）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ ディプロマポリシーと卒後研修終了時の学修成果が関連づけられている。

改善のための示唆

- ・ 国際保健に関して学生がより理解できるように、学修成果に記述することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 今後、カリキュラム評価(IR)委員会では、学修成果が適切に達成されているかを検証するために、在学生だけでなく、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果達成状況に関する調査を実施していく。
- また、その結果や、国内外の社会の変化を考慮し、大学の認証評価やJACMEの分野別認証評価のタイミングなどに合わせて、5～10年ごとにディプロマポリシーを見直すことを検討する。その際には、ディプロマポリシーの中での国際保健の観点について、さらに明確にすることを考慮する。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生が医学部医学科教育委員会の正式な委員になり、ディプロマポリシー策定の議論に参加している。

改善のための助言

- ・ 使命としての医学部の理念の策定には学生が参画しておらず、今後使命を改定する際には、学生が策定に参画すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では2021年度（2022年3月）に教員向けに教育状況調査を実施し、その参考資料として上記の学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価結果も示し、学修成果も含めたカリキュラムに関する意見を収集しており、その結果を学生も委員に含むカリキュラム評価（IR）委員会にて議論している。また調査結果およびカリキュラム評価（IR）委員会での審議事項は、同じく学生も委員に含む医学部医学科教育委員会にも提供され審議されている。

今後の計画

- 教員向けに教育状況調査は今後も定期的の実施し、学修成果およびカリキュラムへの意見を求めていく。
- 今後、カリキュラム評価（IR）委員会では、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果への意見を求めるアンケート調査を実施していく。
- また、それらの結果や、国内外の社会の変化を考慮し、大学の認証評価やJACMEの分野別認証評価のタイミングなどに合わせて、5～10年ごとに理念や3ポリシーを見直すことを検討する。その際には、3ポリシーだけでなく理念の策定にも学生が参画することを考慮する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料8 2021年度学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価
資料7 2021年度教員向け教育状況調査（2022年3月実施）
資料18 2022年度新入生アンケート（2022年4月実施）
資料1 2022年度4月医学部医学科教育委員会議事メモ
資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施）
資料10 2022年度卒業生調査（案）（2022年9月実施予定）

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域医療機関などからの意見を聴取している。

改善のための示唆

- ・ 患者や他の医療職など広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取して、使命と学修成果に反映させることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では2021年度より学生向け学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価、および教員に対し学修成果も含めたカリキュラムに関する意見を収集する教育状況調査を開始しており、その結果を、学外者、他の医療職も委員に含むカリキュラム評価(IR)委員会にて議論している。

今後の計画

- カリキュラム評価(IR)委員会では、卒業生および卒業生の進路先に対しても学修成果への意見を求めるアンケート調査を実施していく。
- また、それらの結果や、国内外の社会の変化を考慮し、大学の認証評価やJACMEの分野別認証評価のタイミングなどに合わせて、5～10年ごとに理念や3ポリシーを見直すことを検討する。その際には、患者からの意見の聴取を考慮する。

改善状況を示す根拠資料

- 資料3 2021年度第4回カリキュラム評価（IR）委員会議事メモ
資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施）
資料10 2022年度卒業生調査（案）（2022年9月実施予定）

2. 教育プログラム

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学研究を重視するという理念のもと、MD・PhDコース、博士課程プレプログラム、学士編入学者用のカリキュラムが定められていることは評価できる。
- ・ 学部学生が大学院の講義に参加することができる点は評価できる。
- ・ 学修意欲を刺激するために、医学入門や基礎医学セミナーなどが開講されている。

改善のための助言

- ・ 学修成果の達成度を段階的に測定できるように、カリキュラムを設定すべきである。
- ・ より多くの科目で、学生が自分の学修過程に責任を持てるように、学修意欲を刺激し、準備を促して、学生を支援するようなカリキュラムや教授方法/学修方法を採用すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機能の下に設置されている岐阜大学医学部とともに、2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、学部教育における連携を目指している。その中では「医学専門科目の連携について」「教学IRの連携について」「ICT教育の連携について」「共用試験の連携について」「地域医療教育の連携について」「アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の連携について」をテーマとし、具体的な連携を検討している。「医学専門科目の連携について」では、両大学の同様の科目を担当する教員同士が、それぞれの講義・実習内容等を共有し、意見交換する場を設けていくことを予定している。
- 総合医学教育センターでは、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」と称するFaculty Development (FD)を2021年度より開始した。2022年1月にオンライン形式で開催された第1回では、「（コロナ禍における今後の教育のあり方を見据えた）来年度の講義・実習について」「岐阜大学との教育連携について」「IR活動について」「ICT－NUCTの今後・機構ID」「国の動き－共用試験の公的化・コアカリ改訂」をテーマとしてグループワークを交えて活発な討議・質問が行われた。今後も定期的な開催を予定している。
- 医学部医学科教育委員会では、カリキュラム評価（IR）委員会と合同で、2023年度新カリキュラムについてのアンケート（2022年3月）を学生・教員向けに実施し、学生や教員の意見を踏まえながら新カリキュラムの作成にあたっている。
- 2021年度からは学修成果の達成度を段階的に測定できるように、年度末に「ディプロマポリシー達成状況に関する自己評価」を開始している。

今後の計画

- 実際の岐阜大学との教育連携の一例として、2022年度からは1年生を対象と他「医学入門」の一部の講義で岐阜大学との連携授業が実施される予定である。
- 2023年度以降の新カリキュラム策定にあたっては、アンケート調査に加えて、公開討論会など、広く教員と学生の意見を求める機会を確保し、進めていくことを予定している。

改善状況を示す根拠資料

- 資料13 2021年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告（～2022年7月）
- 資料11 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年1月実施）
- 資料12 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年7月実施）
- 資料8 2021年度学修成果（ディプロマポリシー）達成状況に関する自己評価
- 資料19 新カリキュラム（2023年度）に関するアンケート（2022年3月実施）
- 資料14 岐阜大学との授業連携「医学入門」（2022年6月実施）
- 資料20 2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会（2022年5月～7月）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 生涯学習につながるカリキュラムをさらに充実させることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- キャリア教育など、生涯教育につながるカリキュラムを拡充することを目指し、「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的に開催していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料33 名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク
学生・若手医師向けキャリアセミナー（案）

2.2 科学的方法

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学研究を重視するという理念のもと、基礎セミナー、基礎医学セミナーといった科学的手法の原理、医学研究の手法を学ぶ科目が設定されている。
- ・ 冊子資料「EBM学習パッケージ」が作成され、それを用いてEBMの基本的な教育が行われている。

改善のための助言

- ・ 臨床実習の現場でEBMの教育を確実に実践すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- EBMを臨床実習の現場で活用できるようにするため、PBLにおいて臨床的な状況でのEBMの活用を学習するようにした。
- EBM教育としてPBLチュートリアル実施時のオリエンテーションにて、Up-to-dateを用いた文献検索に関する説明会を開始している。またPBLチュートリアルでの適切な文献引用に関する資料を作成し学生に配布している。
- PBLについてEBMの5つのステップ(1. 疑問の定式化・2. 情報収集・3. 批判的吟味・4. 患者への適用・5. 振り返り)について、1, 3, 4, 5を支援する質問をチューター用シナリオ

に追加し、チューターから学生にEBMの学習を促せるようにした。

PBLのステップ2の質についてチューターが評価票で評価するようにした。

- また2021年度から2022年度にかけて、総合医学教育センター／卒後臨床研修キャリア形成支援センター学生評価WGでは、臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を実施し、その中で学生がどのように文献を調べ、それに対してどのようにフィードバックされているかを調査した。

今後の計画

- 学生評価WGの実施した臨床実習の全診療科へのインタビュー調査結果も踏まえて、臨床実習の現場でのEBM教育を拡充するための方策を検討していく。
- 名古屋大学医学部では2021年4月に臨床研究教育学講座を設け、臨床研究人材の育成と各種臨床研究の支援を目指している。今後学部学生への臨床研究に関するリテラシー向上のための教育にもあたっていく予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料25 2022年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料（学生用）
資料26 2022年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料（教員用）
資料27 2022年度PBLチュートリアルオンライン評価に関する資料（教員用）
資料28 2022年度PBLチュートリアル適切な文献引用について
資料22 臨床実習に関するインタビュー調査（医学部附属病院 全診療科）
資料23 臨床実習における診療参加の例
（小児科・血液内科・腎臓内科・総合診療科・外科ユニット）
資料24 臨床実習（学生向け）アンケート
資料57 臨床研究教育学講座（名古屋大学医学部HP）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 基礎医学セミナーにおいて、約6か月間の研究室配属が行われていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

2.3 基礎医学

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 基礎医学分野の要素が広くカリキュラムに取り入れられている。

改善のための助言

- ・ 臨床医学を修得し応用するのに必要となる基本的な科学的知見、概念と手法を理解するのに役立つという観点から、カリキュラム全体の中での基礎医学教育のあり方を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2023年度からは基礎医学教育の大幅な再編を含む新カリキュラムへの変更を予定している。それに向けて「学生・教員を対象とした新カリキュラム2023年度に関する調査」を実施し、教育プログラムの中での基礎医学教育のあり方に際し、教員や学生から広く意見を求めた。

今後の計画

- 2023年度以降の新カリキュラム策定にあたっては、アンケート調査に加えて、公開討論会など、広く教員と学生の意見を求める機会を確保し、進めていくことを予定している。

改善状況を示す根拠資料

資料19 新カリキュラム2023年度に関するアンケート（2022年3月実施）

資料20 2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会（2022年5月～7月）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医療におけるAIの教育が行われている。

改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となると予測されることについて、カリキュラム全体として明確にすることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 2023年度からの新カリキュラム作成にあたっては、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となると予測される事項も考慮し、医療情報学の充実化などを図っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 老年科において、高齢者医療や福祉に関して社会医学を含む教育が行われている。

改善のための助言

- ・ 行動科学、医療倫理学、医療法学の体系的なカリキュラムを定め、確実に実践すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2023年度以降の専門教育を対象とした新カリキュラム作成にあたっては、行動科学や社会医学の充実化を図っている（実際の講義開始は2024年度からを予定している）。

今後の計画

- 新カリキュラムにおいて、行動科学、医療倫理学、医療法学の体系的なカリキュラムを実際に実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料56 2023年度2年生2024年度3年生時間割（案）行動科学・社会科学

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医療制度の変化に関する教育が行われている。

改善のための示唆

- ・ 行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学に関して、カリキュラムを調整および修正する体制を整備することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学も含めたカリキュラムに関しては、

カリキュラム評価(IR)委員会による継続的な授業評価および学生・教員を対象としたカリキュラムアンケートを実施し、評価していくとともに学習者や教員の需要を考慮した調整を行っていく。また、モデル・コア・カリキュラム改訂など、社会からの要請も考慮したカリキュラムの見直しを定期的に行っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

2.5臨床医学と技能

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「臨床実習Ⅱ」の教育期間を2020年度から延長し、診療参加型臨床実習の期間を増やしている。

改善のための助言

- ・ 臨床実習に関して、重要な診療科で学修するための十分な時間を全員に確保すべきである。
- ・ 学生が実習において、チームの一員としてより積極的に診療に参加できる実習を充実させるべきである。
- ・ 総括的評価に加えて、形成的評価を充実し、診療参加型臨床実習の質を向上させるべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2021年度から2022年度にかけて、総合医学教育センター／卒後臨床研修キャリア形成支援センター学生評価WGでは、臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を以下の内容で実施した。
 - ・ コロナをきっかけとした変化も含めて、現在臨床実習で何が行われているかを知る
 - ・ 形成的評価も含めて臨床実習で行われている評価を知る
 - ・ 臨床実習現場での評価におけるICTの活用可能性について相談する
 - ・ 参加型への移行可能性について相談する
 - ・ ディプロマポリシーとの関連付けについて相談する
- また、メディカルXRセンターでは、シミュレーターを用いた教育の拡充を図っている。（VR手術室、解剖のVRシミュレーター、直腸診シミュレーターなど）

臨床実習における診療参加の例（外科ユニット）

臨床実習1・・・学生は2週間ごと1つの臓器グループに配置され、そのグループの手術見学と手術に参加した患者さんの周術期の回診・カルテ記載を行っている（全部で4週間-2グループ）。

臨床実習2・・・学生は4週間の間1つの臓器グループに所属し、チームの一員

として手術・検査・回診などに参加する。臨床実習2では1よりもグループの1人としての活躍を求め、実際に手術や処置の助手として見学にとどまらない参加をする。

今後の計画

- 上記の臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を踏まえて、形成的評価の現状及び診療参加をするために障壁となっている要因を分析し、診療参加型実習に向けた支援を今後検討していく。
- ディプロマポリシーに関連づけられ、形成的評価を統合しICTを活用した評価システムを構築し今後運用することを目指していく。

改善状況を示す根拠資料

資料22 臨床実習に関するインタビュー調査（医学部附属病院 全診療科）

資料23 臨床実習における診療参加の例

（小児科・血液内科・腎臓内科・総合診療科・外科ユニット）

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 1年次の医学入門の中で、看護実習、介護実習、医師シャドーイング、医療現場体験実習などが行われている。

改善のための示唆

- ・ 1年次だけでなく、全ての学生が2年次から臨床実習開始まで、徐々に患者診療へ参画する機会を確実に確保することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 臨床医学・臨床実習も含めたカリキュラムに関しては、カリキュラム評価(IR)委員会による継続的な授業評価および学生・教員を対象としたカリキュラムアンケートを実施し、評価していくとともに学習者や教員の需要を考慮した調整を行っていく。また、モデル・コア・カリキュラム改訂など、社会からの要請も考慮したカリキュラムの見直しを定期的に行っていく。
- 1年次だけでなく、2年次から臨床実習開始までの期間においても患者診療へ参画する機会を今後検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育範囲、教育内容、実施日程などがシラバスに明示されている。

改善のための助言

- ・ 6年間の医学教育プログラムにおいて、全学教育科目、基礎医学、行動科学、社会医学および臨床医学を 適切な関連と配分で構成すべきである。
- ・ 6年間を通じて、学修成果を確実に達成できるように、教育範囲、教育内容、教育科目の実施順序を明示すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2023年度からは全学教育科目、基礎医学、行動科学、社会医学等の大幅な再編を含む新カリキュラムへの変更を予定している。

今後の計画

- 新カリキュラムへの変更に際しては、学生や教員から広く意見を収集しニーズを踏まえるとともに、6年間を通じた学修成果の確実な達成を考慮した期間や実施順序等を検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料19 新カリキュラム2023年度に関するアンケート（学生向け）（2022年3月実施）

資料20 2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会（2022年5月～7月）

資料56 2023年度2年生2024年度3年生時間割（案）

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 4年次に臨床医学の水平的統合を目指した9講義から成る「臓器別臨床講義」が設定されている。

改善のための示唆

- ・ カリキュラムの水平的統合、垂直的統合を確実に実施することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 新カリキュラムへの変更に際しては、学生や教員から広く意見を収集しニーズを踏まえるとともに、カリキュラムの水平的統合、垂直的統合を図ることも検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

2.7 教育プログラム管理

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ、医学部医学科教育委員会が設置され、構成委員に教員と学生の代表が含まれている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 2022年度より、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の学生委員を別に専任するなど、両者の独立性を高めている。
- 医学部医学科教育委員会では、カリキュラム評価(IR)委員会からの提言を受けて実際の改善の取り組んでおり、実際の改善教育プログラム改善活動を通じて両者の役割分担が明確になってきている。

今後の計画

- 引き続き、実質的な活動を通じて、医学部医学科教育委員会の担う役割を明確にしていく。

改善状況を示す根拠資料

資料2 2022年度医学部医学科学部教育委員会 名簿

資料4 2022年度医学部カリキュラム評価(IR)委員会名簿

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育カリキュラムの改善に関して、カリキュラム評価(IR)委員会などとの連携体制が組織的に示されている。

改善のための示唆

- ・ 医学部医学科教育委員会を中心とした関連組織が、有機的かつ持続的に連携して活動することが望まれる。
- ・ 教育カリキュラムの立案と実施に責任を持つ委員会に、卒業生、臨床実習に関わる他の医療専門職、一般市民などの幅広い教育関係者を含めることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 総合医学教育センターが卒後臨床研修・キャリア支援センターと連携して卒前教育と卒後の教育・臨床実践を支援している。
- ・ 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」が卒前教育と卒後の教育・臨床実践に関与し、組織的に活動している。

改善のための助言

- ・ 保健医療上の問題点を特定し、それに対して必要な学修成果を明らかにして、適切に連携を行うべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価（IR）委員会では2022年度以降、卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的に実施していくことを決定した。

今後の計画

- 卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施により、卒業生や卒業生の働く環境からも本学のカリキュラムや学修環境に関する意見、さらには地域や社会の抱える保健医療上も問題に関する情報を収集し、教育プログラムを適切に改良していく。
- モデル・コア・カリキュラム改訂など、社会からの要請も考慮したカリキュラムの見直しを定期的に行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施）

資料10 2022年度卒業生調査（案）（2022年9月実施予定）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」を通じて、卒業生が将来働く環境からの情報を得ている。

改善のための示唆

- ・ 基礎研究、公衆衛生、産業保健など、卒業後に選択されることが少ない分野からも、さらに情報収集を行うことが望まれる。
- ・ 一般市民など地域や社会の意見を、さらに取り入れることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 2022年2月に、4,5,6年生に対して名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク（名大ネットワーク）にて研修病院選択に関するアンケートを実施し研修病院選択にあたり困ったことなどを調査した。
- カリキュラム評価（IR）委員会では2022年度以降、卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的の実施していくことを決定した。

今後の計画

- 卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施により、卒業生や卒業生の働く環境からも本学のカリキュラムや学修環境に関する意見を得て、教育プログラムを適切に改良していく。卒業生を対象としたアンケートでは、臨床だけでなく研究・公衆衛生・産業保健などの分野に進んだ卒業生も対象とし意見収集を行う。
- モデル・コア・カリキュラム改訂など、社会からの要請も考慮したカリキュラムの見直しを定期的に行っていく。
- キャリア教育など、生涯教育につながるカリキュラムを拡充することを目指し、「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的を開催していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料32 名大ネットワーク研修病院選択に関するアンケート（2022年2月実施）

資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施）

資料10 2022年度卒業生調査（案）（2022年9月実施予定）

資料33 名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク
学生・若手医師向けキャリアセミナー（案）

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 過去の試験問題等を収集し、医学教育専門家による分析が開始されている。

改善のための助言

- ・ より多くの科目で、知識だけでなく、技能および態度について評価方法や基準を明示し、確実に実施すべきである。
- ・ 臨床実習中の疾患や病態の経験についての評価に加え、MiniCEXなどWorkplace-based Assessmentによる態度・技能評価も確実に実施すべきである。
- ・ 教職員の関係者が履修する科目の評価に際しては、利益相反に十分な配慮を行うべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2021年度から2022年度にかけて、総合医学教育センター／卒後臨床研修キャリア形成支援センター学生評価WGでは、臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を以下の内容で実施した。
 - ・ コロナをきっかけとした変化も含めて、現在臨床実習で何が行われているかを知る
 - ・ 形成的評価も、技能・態度面の評価も含めて臨床実習で行われている評価を知る
 - ・ 臨床実習現場での評価におけるICTの活用可能性について相談する
 - ・ 診療参加型への移行可能性について相談する
 - ・ ディプロマポリシーとの関連付けについて相談する

今後の計画

- 上記の臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を踏まえて、技能・態度も含めた新評価を実施するための準備を開始していく。その際にはMiniCEXなどWorkplace-based Assessmentによる評価も取り入れることを検討していく。
- 技能評価に関しては、臨床実習後OSCEの大学独自課題で評価することも検討している。

改善状況を示す根拠資料

資料22 臨床実習に関するインタビュー調査（医学部附属病院 全診療科）

資料23 臨床実習における診療参加の例

（小児科・血液内科・腎臓内科・総合診療科・外科ユニット）

資料24 臨床実習（学生向け）アンケート

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「アンプロフェッショナルな行動・態度の評価」を始めている。

改善のための示唆

- ・ 全ての評価において信頼性、妥当性を検証し、明示することが望まれる。
- ・ 計画している電子ポートフォリオによる学びの可視化や臨床実習におけるMiniCEX、360度評価などの活用を推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 上記の臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を踏まえて、信頼性、妥当性も考慮した技能・態度も含めた新評価を実施するための準備を開始していく。
- カリキュラム評価(IR)委員会では試験成績など教学データの分析を予定している。その中では、各科目の成績評価の妥当性・信頼性についての検証も実施していく。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

3.2 評価と学修との関連

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 目標とする学修成果と教育方法に整合した評価をさらに進めるべきである。
- ・ 目標とする学修成果を学生が達成していることを保証する評価を確立すべきである。
- ・ 形成的評価を積極的に取り入れ、学生の学修を促進するとともに、学修の進捗を判定できる評価を行うべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2021年度から2022年度にかけて、総合医学教育センター／卒後臨床研修キャリア形成支援センター学生評価WGでは、臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を以下の内容で実施した。
 - ・ コロナをきっかけとした変化も含めて、現在臨床実習で何が行われているかを知る
 - ・ 形成的評価も含めて臨床実習で行われている評価を知る

- ・臨床実習現場での評価におけるICTの活用可能性について相談する
- ・参加型への移行可能性について相談する
- ・ディプロマポリシーとの関連付けについて相談する
- カリキュラム評価(IR)委員会では、ディプロマポリシーで定める学修成果の内容が達成されているか検証するために、学生に対するディプロマポリシー達成状況に関する自己評価を2021年度より開始している。今後も各学年に対し各年度末に継続的に実施していく。

形成的評価の例：

臨床実習（外科ユニット）：評価において形成的評価を目的とした評価表（ルーブリック）を使用し、活用している。最終日には糸結びのテストをして直接現場でフィードバックしている。

臨床医学「消化器」の「膵臓外科」では学生が小テストを何度でも受けられるようにしている。またアウトカム基盤型学修／インストラクショナル・デザインを意図し、学生は小テストを合格すれば授業に参加しなくても可としている。

直腸診実習では学生同士が評価表を付けあうピア評価を使って形成的評価を促している。

今後の計画

- 上記の臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を踏まえて、形成的評価の現状を分析し、形成的評価の充実に向けた支援を今後検討していく。
- ディプロマポリシーに関連づけられ、形成的評価を統合しICTを活用した評価システムを構築し今後運用することを目指していく。
- カリキュラム評価(IR)委員会では試験成績など教学データの分析を予定している。その中では、各科目の学修成果を踏まえて、評価の妥当性についての検証も実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料22 臨床実習に関するインタビュー調査（医学部附属病院 全診療科）

資料23 臨床実習における診療参加の例

（小児科・血液内科・腎臓内科・総合診療科・外科ユニット）

資料24 臨床実習（学生向け）アンケート

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生と教員が協議し、試験日程が過密にならないように配慮している。

改善のための示唆

- ・ 評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行い、全ての学生の学修を確実にすることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 2023年度以降の医学科カリキュラムに関する公開討論会では試験日程の決定ルールに関しても学生と教員のニーズを踏まえて再検討することを予定している。

改善状況を示す根拠資料

資料20 2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会議事録
(2022年5月～7月)

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部の理念、アドミッションポリシーに基づいて、一般入試（前期日程、地域枠としての後期日程）、研究者志向のある学生を選抜する推薦入試と学士編入学入試など、多様な選抜方法が実施されている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 3年次編入から2年次編入へ
令和3年度までは、第3年次編入学学生の受入れを実施していたが、令和4年度より、第2年次編入学学生の受入れを開始した。
同時に、編入学試験の募集定員ですが、令和3年度までは第3年次編入学生5名、令和4年度以降は第2年次編入学生4名となった。
- 地域枠選抜入試を後期日程から前期日程へ
令和5年度入試より、地域枠5名の選抜入試を後期日程から前期日程へ変更の予定である。

今後の計画

- 今後カリキュラム評価（IR）委員会では、卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施を予定している。また、カリキュラム評価（IR）委員会では、学務課と連携して、入試データや成績データなどの教学データの分析も予定している。上記の卒業生調査や教学データ分析では地域枠・推薦入試・編入学など入試枠ごとの分析も実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料36 令和5年度以降の医学部医学科一般選抜（前期日程・後期日程）入試の変更

資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施）

資料10 2022年度卒業生調査（案）（2022年9月実施予定）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 開示請求にとどまらず、入学決定の疑義申し立て制度を採用することが期待される。

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 今後、カリキュラム評価（IR）委員会では、卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施を予定している。また、カリキュラム評価（IR）委員会では、学務課と連携して、入試データや成績データなどの教学データの分析も予定している。上記の卒業生調査や教学データ分析では地域枠・推薦入試など入試枠ごとの分析も実施していく。
- 入学試験情報の開示請求を受け付けており、入学決定の疑義申し立てが可能であるが、制度の利用実績も踏まえ、制度に有り方について引き続き検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 想定するキャリアプランにあわせて複数の教育プログラムを準備したうえで、異なった選抜様式を採用している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 基礎医学研究者の減少に対応した基礎医学研究者の養成プログラムを準備し、受け入れ定員を設けている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

4.3学生のカウンセリングと支援

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 全学において学生支援センター（現学生支援本部）を設置し、保健管理室、障害学生支援室（現アビリティ支援センター）と連携することで、学生のカウンセリング、支援体制を構築している。

改善のための助言

- ・ 学生を支援するためのプログラムをさらに充実させるべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2021年度からは各年度末に学生向け学修状況調査を実施し、「保健管理室」「教員との交流」「友人関係」「自分の社会生活への不安」「経済的支援」についての意見を収集している。
- またその他の科目別の授業評価調査なども含め学生からの注視したほうがよいコメントがあった場合は、関係組織と連携し対応している。
- 実際に2021年度の授業評価や学修状況調査では匿名ではあったがハラスメントが疑われる行為の記載があったため、名古屋大学ハラスメント相談センターと連携し、学生向けに相談窓口の案内を周知するとともに、教員向けの研修を実施した。

今後の計画

- 2022年度にハラスメント防止をテーマにしたFDを実施予定である。
- 今後も学生に対し、支援プログラム、保健管理室、アビリティ支援センター、ハラスメント相談センターなどの情報を周知し、適切なカウンセリングと支援を実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料6 2021年度学生向け学修状況調査（2022年2月実施）

資料37 医学部におけるハラスメント防止研修eラーニング（2022年6月実施）

資料38 名古屋大学ハラスメント相談センターハラスメント講義（2022年7月実施）

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」が、キャリア支援の一部を担っている。

改善のための示唆

- ・ 指導教員によるメンター制度を充実し、教育進度に基づいて学修上のカウンセリングを提供し、実質化することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 指導教員との面談記録の作成を2020年度より決定している。
- 取得単位が不足するなど教育上の課題を抱える学生に対しては、個別の面談も実施している。

今後の計画

- 指導教員との定期面談や教育上の課題を抱えた場合の面談時において、記録に基づいた継続的な支援の実績を今後積み重ねていく。

改善状況を示す根拠資料

資料39 2021年度学生定期面談の記録に関する資料

4.4 学生の参加

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会に学生委員が規定され、実際に活動を行っている。

改善のための助言

- ・ 使命を策定する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。
- ・ 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会に参加する学生委員が重複しており、両委員会の独立性を担保するために委員の構成を十分に検討すべきである。
- ・ 学生生活委員会に学生が実質的に参加すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2022年度より、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の学生委員を別に専任するなど、両者の独立性を高めている。
- 医学部医学科教育委員会では、カリキュラム評価（IR）委員会と合同で、2023年度新カリキュラムについてのアンケート（2022年3月）を学生・教員向けに実施し、学生や教員の意見を踏まえながら新カリキュラムの作成にあたっている。

今後の計画

- 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会における学生委員の積極的な参加と発言を促していく。
- 学生生活委員会は関係する学生との協議を通じて広く学生の問題及び要望の解決に尽力しているが、今後委員会内への学生の参画も検討していく。
- 2023年度以降の新カリキュラム策定にあたっては、アンケート調査に加えて、公開討論会など、広く教員と学生の意見を求める機会を確保し、進めていくことを予定している。

改善状況を示す根拠資料

資料2 2022年度医学部医学科教育委員会名簿

資料4 2022年度医学部カリキュラム評価（IR）委員会名簿

資料19 新カリキュラム（2023年度）に関するアンケート（2022年3月実施）

資料20 2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会（2022年5月～7月）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準：[適合](#)

特記すべき良い点（特色）

- ・ 適切にカリキュラムを実施するための教員の募集と選抜を行っている。

改善のための助言

- ・ 女性教員の比率に十分な配慮を心がけるべきである。
- ・ 教員の教育活動のモニタを充分に行うべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部附属病院では卒後臨床研修・キャリア形成支援センター内に男女医師キャリア支援相談部門を設け、女性教員も含めた女性医師のキャリア支援を行っている。

今後の計画

- 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では、医学部卒業後に多様な分野で活躍している卒業生（女性教員を含む）を招いた学生・若手医師向けキャリアセミナーを定期的開催していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料31 2021年度男女医師キャリア支援相談部門の活動報告資料

資料33 名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク
学生・若手医師向けキャリアセミナー（案）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教員の募集および選考は医学部の理念に基づいて行われている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特記事項なし

今後の計画

- 特記事項なし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「エフォート割合のガイドライン」に基づき、「教員個人評価活動報告書兼自己評価書」により教員を評価している。
- ・ 教育専任教員や病院中央部門の教員の教育や運営へのエフォート率に配慮し、組織全体で職務間のバランスをとっている。

改善のための助言

- ・ 全ての教員がカリキュラム全体への理解を深めるべきである。
- ・ 臨床医学の教員に加えて、全学教育科目・基礎医学・社会医学の教員、および学外実習病院の指導医への能力開発を進めるべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 総合医学教育センターでは、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」と称するFDを2021年度より開始した。2022年1月にオンライン形式で開催された第1回では、「（コロナ禍における今後の教育のあり方を見据えた）来年度の講義・実習について」「岐阜大学との教育連携について」「IR活動について」「ICT－NUCTの今後・機構ID」「国の動き－共用試験の公的化・コアカリ改訂」をテーマとしてグループワークを交えて活発な討議・質問が行われた。今後も定期的な開催を予定している。
- 2023年度以降のカリキュラム改訂を見据え、2021年度末に「学生・教員を対象とした新カリキュラム2023年度に関する調査」を実施した。その際には現在のカリキュ

ラムおよび朝らしいカリキュラム案を資料として提供し、カリキュラム全体への教員の理解を促した。

- 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」では2020年度に引き続き2021年度も関連病院で学生・研修医を指導する医師を対象とし、完全オンラインでの指導医講習会を実施した。十分な事前学習と、オンラインならではのグループワークなども盛り込まれた非常に先進的な取り組みとして高く評価されている。

今後の計画

- 「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」を含めた様々なFDの機会を名大医学部教員および学外実習病院指導医に対し今後も実施していく。

改善状況を示す根拠資料

資料11 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年1月実施）

資料12 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年7月実施）

資料7 2021年度教員向け教育状況調査（2022年3月実施）

資料20 2023年度以降の新カリキュラム策定に関する公開討論会（2022年5月～7月）

資料34 2021年度名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク総会議事録

資料35 2021年度名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク指導医講習会

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ カリキュラムの構成に関連して教員を適切に配置している。

改善のための示唆

- ・ 「PBLチュートリアル」と「基礎的臨床技能実習」の指導体制を充実することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学では新任教員向けFDとPBLチュータートレーニングも兼ねた医学教育改革ワークショップを実施していたが、コロナ禍以後一時中止となっていた。2021年度末からは同チュータートレーニングを再開し、現在オンライン実施となっているPBLチュートリアルを担当する教員の指導体制充実に努めている。2022年4月5日にオンラインでトレーニングを実施した。

今後の計画

- 現在オンライン実施となっているPBLチュートリアルに関しては、今後もICTの活用によるグループ学習を促すなど、ピアラーニングを取り入れた問題基盤型学習の一層の充実を図っていく。また基本的臨床技能実習においてもシミュレーターやICTの活用を通じて、実習内容の充実を図る。指導教員数の拡充とともに上記のような教育方略の工夫を通じて総合的な指導体制の充実を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料26 2022年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料（教員用）

資料27 2022年度PBLチュートリアルオンライン評価に関する資料料（教員用）

資料28 2022年度PBLチュートリアル適切な文献引用について

6. 教育資源

6.1 施設・設備

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 6年生は医学部図書館に1年間占有できる専用のデスクが用意され、自習用に使用できる。

改善のための助言

- ・ シミュレーション教育・研究・診療支援を担う「メディカルxRセンター」において、学生ごとの施設の利用状況や技能習得状況を把握すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より、LMSを活用した学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート（学修状況調査）、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート（教育状況調査）を開始するなどし、学修教育資源や環境に対する教員と学生からの意見を広く収集し、実際の教育環境の改善に活かしている。実際の改善事例を以下にあげる。
 - ・ 上記アンケートの結果、臨床実習や基礎医学セミナー（研究室配属）の一部で、ハラスメントと疑われかねない行為があることが判明し、カリキュラム評価（IR）委員会からの提言にもとづき、医学部医学科教育委員会・名古屋大学ハラスメント相談センターと合同で、医学部のカリキュラムに関わる全教員を対象としたハラスメント防止研修の実施に至った。
 - ・ 上記アンケートの結果、病院内における学生が使用可能な電子カルテ端末が、新型コロナウイルス感染対策のために、一部が使用不可能になったこともあり、台数が限られていることが学修・教育上の問題となっていることが判明した。そのため、カリキュラム評価（IR）委員会からの提言にもとづき、電子カルテ管理委員会および新型コロナウイルス感染対策連絡会議にて協議し、一定の感染予防策の強化の上で、学生用電子カルテ端末の稼働数の増加に至った。
- また上記の定期的実施するアンケート調査以外にも、「コロナ禍後の医学部教育のあるべき姿に係る調査」、「学生・教員を対象とした新カリキュラム2023年度に関する調査」など教育プログラムの改善に際し、教員や学生から広く意見を求める必要がある際には、積極的に調査を実施している。
- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機能の下に設置されている岐阜大学医学部とともに、2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、学部教育における連携を目指し

ている。その中では「医学専門科目の連携について」「教学IRの連携について」「ICT教育の連携について」「共用試験の連携について」「地域医療教育の連携について」「アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の連携について」をテーマとし、教育資源・環境に関しても具体的な連携を検討している。

今後の計画

- 今後も定期的に学生・教員に対し、教育資源・環境に関する調査を実施し、必要な改善に努めていく。
- 今後、東海国立大学機構として岐阜大学との連携が強化されることを踏まえ、教育面でのインフラの共有や共同設立なども計画していく。
- 名古屋大学と岐阜大学は、2022年度に文部科学省の「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」公募に採択され「医療人類学とバーチャル教育を活用した屋根瓦式地域医療教育」に取り組んでいく。その中では、オンデマンド教材やバーチャル教育環境などの資源・設備の充実化にも取り組んでいく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料6 2021年度学生向け学修状況調査（2022年2月実施）
資料7 2021年度教員向け教育状況調査（2022年3月実施）
資料21 カリキュラム評価(IR)委員会からの提言の資料（2022年2月～7月）
資料16 2021年度コロナ禍後の医学部教育のあるべき姿に係る調査（2021年12月）
資料13 2021年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告（～2022年7月）
資料14 岐阜大学との授業連携（2022年6月）
資料15 2022年度文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材育成養成拠点事業

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- なし

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

6.2 臨床実習の資源

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「プライマリ・ケア実習」や「臨床実習Ⅱ」で選択できる学外の施設が十分に確保されている。

改善のための助言

- ・ 学生が学内・学外それぞれの臨床実習施設において、実際に経験する症候、疾患分類、患者数を把握し、確実に必要な臨床経験を積める体制を整備すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機能の下に設置されている岐阜大学医学部とともに、2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、学部教育における連携を目指している。その中では「医学専門科目の連携について」「教学IRの連携について」「ICT教育の連携について」「共用試験の連携について」「地域医療教育の連携について」「アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の連携について」をテーマとし、教育資源・環境に関しても具体的な連携を検討している。「地域医療教育の連携について」では臨床実習においてお互いの関連病院を実習先として共用することなども検討を開始している。
- 2021年度から2022年度にかけて、総合医学教育センター／卒後臨床研修キャリア形成支援センター学生評価WGでは、臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を実施し、学生がどのように臨床経験を積んでいるのかについて現状を調査した。

今後の計画

- 上記の臨床実習の全診療科へのインタビュー調査結果に基づいて、学生の実際に経験する症候、疾患分類、患者数などの臨床経験を蓄積するためのプラットフォームを準備していく。
- 岐阜大学医学部との臨床実習施設も含めた教育資源の共用の具体的な検討を進めていく。
- 共用試験 OSCE については、東海地区の大学で共用できる OSCE センターの構築も視野に入れながら、本学でどのようなスペースを確保していくのかについて検討を続ける
- 今後も定期的に学生・教員に対し、教育資源・環境に関する調査を実施し、必要な改善に努めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料13 2021年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告（～2022年7月）

資料22 臨床実習に関するインタビュー調査（医学部附属病院 全診療科）

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 患者や地域住民へのアンケートの結果に基づいて、臨床実習施設を評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 現在学内での実習においては患者満足度アンケートを実施している。今後は学外実習施設にもアンケート対象を拡充することを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

6.3 情報通信技術

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 全ての学生が学外でも十分な情報サービスを利用可能である。

改善のための助言

- ・ 情報通信技術の活用方法について、それを促し評価する方針を履行すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- コロナ禍においてオンライン講義やハイブリット講義（オンライン講義と対面講義の併用）は進んでいることを考慮し、講義で利用できるzoomのライセンスを2021年度40本から2022年度は150本に増設するとともに、講義室内においてもオンライン講義等へ参加できる環境を確保するため、講義室のコンセントを増設した。
- 2021年度から2022年度にかけて、総合医学教育センター／卒後臨床研修キャリア形成支援センター学生評価WGでは、臨床実習の全診療科へのインタビュー調査を実施し、情報通信技術の活用状況について現状を調査した。
- 現在PBLチュートリアルはオンラインにて実施しているが、PBL実施委員会・学部教育委員会では2022年度より学生評価についてもオンラインに移行することを決定した。
- 名古屋大学と岐阜大学で共通となる東海国立大学機構アカウントの運用が2021年度より開始となり、メールシステムやクラウドシステムなどにおいて両大学共用のサービスの利用が一部可能になった。
- 情報通信機器を利用した文献検索については、EBM教育としてPBLチュートリアル実施

時のオリエンテーションにて、Up-to-dateを用いた文献検索に関する説明会を開始している。またPBLチュートリアルでの適切な文献引用に関する資料を作成し学生に配布している。

- 授業アンケートなどについても、従来の紙運用から2021年度からは、LMSを活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート（学修状況調査）、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート（教育状況調査）が開始となった。
- 上記アンケートの結果、病院内における学生が使用可能な電子カルテ端末が、新型コロナウイルス感染対策のために、一部使用不可能になったこともあり、台数が限られていることが学修・教育上の問題となっていることが判明した。そのため、カリキュラム評価（IR）委員会からの提言にもとづき、電子カルテ管理委員会および新型コロナウイルス感染対策連絡会議にて協議し、一定の感染予防策の強化の上で、学生用電子カルテ端末の稼働数の増加に至った。

今後の計画

- 卒後臨床研修・キャリア形成支援センターでは、学生向けに電子カルテ使用状況について審議し、教育専任教員により電子カルテ使用マニュアルの作成をすることを検討している。
- 今後も定期的に学生・教員に対し、教育資源・環境に関する調査を実施し、必要な改善に努めていく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料22 臨床実習に関するインタビュー調査（医学部附属病院 全診療科）
資料25 2022年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料（学生用）
資料26 2022年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料（教員用）
資料27 2022年度PBLチュートリアルオンライン評価に関する資料（教員用）
資料28 2022年度PBLチュートリアル適切な文献引用について
資料5 2021年度学生向け授業評価調査（2021年11月～2022年5月実施分）
資料6 2021年度学生向け学修状況調査（2022年2月実施）
資料7 2021年度教員向け教育状況調査（2022年3月実施）
資料21 カリキュラム評価(IR)委員会からの提言の資料（2022年2月～7月）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- Nagoya University Collaboration and course Tools (NUCT) は学内外から利用可能であり、e-learningに活用されている。

改善のための示唆

- 学生向けに電子カルテ使用マニュアルを作成し、その説明会を開催することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

6.4 医学研究と学識

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部学生が行う研究を支援する組織としての「学生研究会」の活動や基礎医学セミナー等を設定し、多数の学生が研究活動に参加していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 「学生研究会」の医学部組織におけるあり方を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部では、研究志向の高い学生が大学院に進学し早期に医師免許と医学博士号が取得できる博士課程教育プログラム（MD・PhDコース）を設けている。2022年度はMD PhDコースプランBに4名が進学している。

今後の計画

- 「学生研究会」の活動状況を学部教育委員会へ定期的に報告するなどの活動を通じ、医学部組織内での位置づけを明確にしていく。
- 名古屋大学医学部では2021年4月に臨床研究教育学講座を設け、臨床研究人材の育成と各種臨床研究の支援を目指している。今後学部学生への臨床研究に関するリテラシー向上のための教育にもあたっていく予定である。

改善状況を示す根拠資料

- 資料40 2022年度 博士課程教育プログラム（MD・PhDコース）
資料41 2021年度 学生研究会 活動実績
資料42 2021年度 学生研究会ラボツアーアンケート
資料57 臨床研究教育学講座（名古屋大学医学部HP）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

6.5 教育専門家

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 総合医学教育センターに教育専門家が配置され、カリキュラム開発、教育技法、および評価方法の開発をはじめ、医学教育の改革に貢献している。

改善のための助言

- ・ 総合医学教育センターの活動に基づき、医学部をあげて教育活動を促進すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機能の下に設置されている岐阜大学医学部とともに、2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、学部教育における連携を目指している。その中では「医学専門科目の連携について」「教学IRの連携について」「ICT教育の連携について」「共用試験の連携について」「地域医療教育の連携について」「アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の連携について」をテーマとし、具体的な連携を検討している。各テーマに対し、両大学の教育専門家が意見交換や交流を行っている。
- 総合医学教育センターでは、名古屋大学医学部の教員に向けて、「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」と称するFaculty Development (FD)を2021年度より開始した。2022年1月にオンライン形式で開催された第1回では、「（コロナ禍における今後の教育のあり方を見据えた）来年度の講義・実習について」「岐阜大学との教育連携について」「IR活動について」「ICTーNUCTの今後・機構ID」「国の動きー共用試験の公的化・コアカリ改訂」をテーマとしてグループワークを交えて活発な討議・質問が行われた。今後も定期的な開催を予定している。

今後の計画

- 「東海国立大学機構名古屋大学医学部FD」を含めた様々なFDの機会を名大医学部教員および学外実習病院指導医に対し今後も実施していく。
- 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター所属の教育専任教員のうち、卒前教育にも関わる一部の教員は、総合医学教育センター併任とし、卒前教育に関わる教育専門家の充実を図る。

改善状況を示す根拠資料

資料13 2021年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告（～2022年7月）

資料11 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年1月実施）

資料12 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD（2022年7月実施）

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育に関する研究が活発に行われている。

改善のための示唆

- ・ 学内の教育学部や、東海国立大学機構を構成している岐阜大学医学部との連携交流が望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機能の下に設置されている岐阜大学医学部とともに、2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、学部教育における連携を目指している。その中では「医学専門科目の連携について」「教学IRの連携について」「ICT教育の連携について」「共用試験の連携について」「地域医療教育の連携について」「アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の連携について」をテーマとし、具体的な連携を検討している。各テーマに対し、両大学の教育専門家が意見交換や交流を行っている。
- 学内の教育専門家による研究活動も引き続き活発に行われている。
- 2020年～2021年度に引き続き、2022年度も文部科学省高等教育局医学教育課に技術参与として本学教員を派遣している。

今後の計画

- 実際の岐阜大学との教育連携の一例として、2022年度からは1年生を対象とした「医学入門」の一部の講義で岐阜大学との連携授業が実施される予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料13 2021年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告（～2022年7月）

資料43 教育専門家による研究「アウトカムベースの医学教育の実施のための一般的なルーブリックの局所的適応：混合方法アプローチ」

資料14 岐阜大学との授業連携（2022年6月）

6.6 教育の交流

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 基礎研究や臨床実習で多くの学生を海外に派遣するのみならず、海外からの医学生を多数受け入れていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 国内の教育機関との交流をさらに促進すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 名古屋大学医学部は同じ東海国立大学機能の下に設置されている岐阜大学医学部とともに、2021年度より東海国立教育連携WGを開催し、学部教育における連携を目指している。その中では「医学専門科目の連携について」「教学IRの連携について」「ICT教育の連携について」「共用試験の連携について」「地域医療教育の連携について」「アンプロフェッショナルな態度・行動の評価・再教育の連携について」をテーマとし、教育資源・環境に関しても具体的な連携を検討している。「地域医療教育の連携について」では臨床実習においてお互いの関連病院を実習先として共用することなども検討を開始している。
- 名古屋大学医学部は基礎医学研究者育成を目的として国内四大学（東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学）と新規共同プロジェクト「基礎医学研究者養成イニシアチブ」を2022年1月より運用開始した。積極的に推進することで、連携校との交流を活性化させて、多様な機会や情報を提供することを目的とする。学生研究会が代表となつて月1回程度、オンラインで打合せを実施している。また、他国内機関とも継続的に連携関係を維持しており、交流活動を合同で行っている。
- 海外との連携について、国際連携室主導で、各協定大学と連絡し、連携を維持している。また、連携を拡大させるため、ボローニャ大学（イタリア）、ミュンヘン大学（ドイツ）と新たに学生交換協定を締結した。今後、学生交換について検討を進める。

今後の計画

- 国内外の連携について、今後も拡大を推し進めるため、関係機関との協議を積極的に進めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料13 2021年度東海国立教育連携WG議事録・活動報告

資料44 国内大学との連携「基礎医学研究者養成イニシアチブ・ラボツアー支援」

資料45 名古屋大学医学部における国内連携

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 国外の教育機関との交流に手厚い支援を提供している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 連携機関の協力の下で、令和3年度は、愛知県がんセンターや生理学研究所にて3年次の基礎医学セミナー実習を行った。また、国内4大学連携について、大学間で協議を続けており、今後は四大学間でのラボツアーや研究研修を提供する。CiBoGでは関係者が集まって、グローバルリトリートとして、2022年2月19日（土）にオンラインで開催した。また、第11回 名古屋大学医学系研究科・生理学研究所合同シンポジウムを2021年9月25日（土）にオンラインで開催するなど、活発に国内で連携活動し交流を促進している。また、令和3年度は、愛知県がんセンターラボツアーに2名、生理学研究所サマースクールに3名が参加して、他機関の協力の下で研修を行っている。
- オーストラリア・モナシュ大学の協力で、学部生の英語力向上を図るため、合同で2022年度より講義を開始した。また、米国の医師国家試験を題材に、英語で医療を学ぶ機会を設けている。他海外大学との連携も進めており、海外の5大学で合同オンライン医療英語実践プログラムを実施したり、高麗大学の国際研究カンファレンスやモナシュ大学が主催するサマーキャンプに参加する機会があり、本学学生が参加している。
- 合同イベントも主催しており、米国在住の医学生を招へいし、日本人学生との討論会を行ったり、海外留学を希望する学生向けに海外で活躍する医師達を招へいしたオンライン講演会や、国際交流を議論するため国内医学部の大学を集めて協議会をオンラインで行った。
- 海外留学について、2022年度海外臨床実習のために5名の学生を選抜し派遣を予定していたが、パンデミックの影響により中止した。派遣学生数は2020年、2021年、2022年ともに0名となっている。今後、海外協定大学から協力が得られ次第、早急に再開したいと考えている。

今後の計画

- コロナ禍により海外臨床実習による学生派遣は2020年度以降中止となっているが、その代替としてオンラインでの交流を充実させている。今後の状況により対面開催や規模の拡大を検討している。また、交流事業として、各機関との連携を進めるため少規模な人的交流を活発に進めている。今後も感染状況など社会情勢を踏まえながら国内外関係機関の協力を得て、交流の充実を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料44 国内大学との連携「基礎医学研究者養成イニシアチブ・ラボツアー支援」
- 資料45 2021年度名古屋大学医学部における国内連携
- 資料46 医学英語講義に関する資料（2022年度シラバス抜粋）
- 資料47 医療英語研修に関する資料（2021年5月開催レポート）
- 資料48 国際研究カンファレンスへの参加に関する資料（高麗大学プログラム）
- 資料49 USMLEオンラインセッションに関する資料（ウェブサイト抜粋）
- 資料50 モナシュ大学主催医学部サマーキャンプに関する資料
(Global Alliance of Medical Excellenceサマースクールフライヤー)

- 資料51 2021年度海外協定大学の追加に関する資料（協定内容）
 資料52 学部生向け討論会の資料（中川氏講演会__2021年9月開催）
 資料53 学部生向け講演会の資料（在米医師講演会__2021年6月～8月開催）
 資料54 教員向け国際交流に関する協議会に関する資料
 （全国医学部国際交流協議会2021年11月__チラシ）
 資料55 2021年度派遣留学中止に関する資料（派遣人数データ）

7. 教育プログラム評価

7.1教育プログラムのモニタと評価

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ カリキュラム評価（IR）委員会を2019年度に新たに設置し、各部署が収集した教学データを一元化して集積・分析する体制を整えている。

改善のための助言

- ・ 各教育組織の役割と責任を明確にしたうえで、教育プログラムを適切に評価し、改善・計画・実施する体制を構築すべきである。
- ・ 教育プログラム評価を行う組織は、カリキュラムの立案と実施を行う組織とは独立しているべきである。
- ・ 入学時から卒業後も継続して、長期的に学修成果の達成度を評価する方法を新たに構築すべきである。
- ・ カリキュラム評価（IR）委員会が分析した教育プログラムの評価結果を、カリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善状況



- 本学の教育プログラム改善に関わる組織として、カリキュラム評価(IR)委員会と医学部医学科教育委員会の役割の位置づけを見直し、PDCAサイクルの図を修正した。
- 2022年度より、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の学生委員を別に専任するなど、両者の独立性を高めている。
- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より、LMSを活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート(学修状況調査)、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート(教育状況調査)を開始するなどし、カリキュラム評価(IR)委員会のプログラム評価活動がより実質的なものとなっている。実際の改善事例を以下にあげる。
- 上記アンケートの結果、臨床実習や基礎セミナー(研究室配属)の一部で、ハラスメントと疑われかねない行為があることが判明し、カリキュラム評価(IR)委員会からの提言にもとづき、医学部医学科教育委員会・名古屋大学ハラスメント相談センターと合同で、医学部のカリキュラムに関わる全教員を対象としたハラスメント防止研修の実施に至った。
- 上記アンケートの結果、病院内における学生が使用可能な電子カルテ端末が、新型コロナウイルス感染対策のために、一部使用不可能になったこともあり、台数が限られていることが学修・教育上の問題となっていることが判明した。そのため、カリキュラム評価(IR)委員会からの提言にもとづき、電子カルテ管理委員会および新型コロナウイルス感染対策連絡会議にて協議し、一定の感染予防策の強化の上で、学生用電子カルテ端末の稼働数の増加に至った。
- カリキュラム評価(IR)委員会が教学データを本格的に扱っていくことを見越して、情報の管理や保管についての規約を設けた。
- 2021年度は病院機能評価であるJCI(Joint Commission International)の定期評価も受審し、医学専門教育体制も含めた病院機能についても評価され、前回2018年度受診時よりも大幅な改善が認められているとの評価結果を得た。

今後の計画

- 今後カリキュラム評価(IR)委員会では、卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施を予定しており、卒業生やその就職先も含めた本学の教育関係者からのフィードバックも教育プログラム改善に活かしていきたい。
- また、カリキュラム評価(IR)委員会では、学務課と連携して、入試データや成績データなどの教学データの分析も予定しており、教育プログラムの構造、内容、試験方法などに関する評価を実施していく。
- 上記の卒業生調査や教学データ分析では地域枠・推薦入試など入試枠ごとの分析も実施していく。
- 上記のようにカリキュラム評価(IR)委員会の機能を強化することにより、今後もカリキュラムおよび学修環境の継続的改良を実施していく。
- 引き続き、実質的な活動を通じて、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の担う役割を明確にしていく。
- またJCIなど定期的に受審する外部評価も定期的な問題点の確認と改良のためのより機会として利用していく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料3 2021年度医学部カリキュラム評価(IR)委員会議事録(～2022年7月)
- 資料4 2022年度医学部カリキュラム評価(IR)委員会名簿
- 資料5 2021年度学生向け授業評価調査(2021年11月～2022年5月実施分)

- 資料6 2021年度学生向け学修状況調査（2022年2月実施）
- 資料7 2021年度教員向け教育状況調査（2022年3月実施）
- 資料8 2021年度学修成果達成状況に関する自己評価結果（2022年2月実施）
- 資料37 医学部におけるハラスメント防止研修eラーニング（2022年6月実施）
- 資料38 名古屋大学ハラスメント相談センターハラスメント講義（2022年7月実施）
- 資料17 教学 IRデータに関する取扱いについて
- 資料21 カリキュラム評価(IR)委員会からの提言の資料（2022年2月～7月）
- 資料29 2022年3月 国際医療機能評価「JCI認証」を更新（付属病院HP）
- 資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施）
- 資料10 2022年度卒業生調査（案）（2022年9月実施予定）

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- なし

改善のための示唆

- 定期的かつ包括的に教育プログラムを確実に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- 新型コロナウイルス感染症の拡大を契機として、医学部医学科教育委員会の学生委員からの主体的な意見が収集され、カリキュラムに反映されている。

改善のための助言

- 教育プログラムに関して、教員と学生から系統的にフィードバックを求め、分析し、教育プログラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2022年度より、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の学生委員をそれぞれ専任で選定することを決定した。
- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より、LMSを活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート(学修状況調査)、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート(教育状況調査)を開始するなどし、教育プログラムに対する教員と学生からの意見を広く収集し、実際のカリキュラムや教育環境の改善に活かしている。実際の改善事例は7.1に挙げた通りである。
- また上記の定期的に実施するアンケート調査以外にも、「コロナ禍後の医学部教育のあるべき姿に係る調査」、「学生・教員を対象とした新カリキュラム2023年度に関する調査」など教育プログラムの改善に際し、教員や学生から広く意見を求める必要がある際には、積極的に調査を実施している。

今後の計画

- 引き続き、LMSを活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート(学修状況調査)、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート(教育状況調査)など、教員と学生からの意見収集を定期的に実施していく。
- 2023年度以降の新カリキュラム策定にあたっては、アンケート調査に加えて、公開討論会など、広く教員と学生の意見を求める機会を確保し、進めていくことを予定している。

改善状況を示す根拠資料

- 資料5 2021年度学生向け授業評価調査(2021年11月～2022年5月実施分)
- 資料6 2021年度学生向け学修状況調査(2022年2月実施)
- 資料7 2021年度教員向け教育状況調査(2022年3月実施)
- 資料8 2021年度学修成果達成状況に関する自己評価結果(2022年2月実施)
- 資料16 2021年度コロナ禍後の医学部教育のあるべき姿に係る調査(2021年12月)
- 資料18 学生・教員を対象とした新カリキュラム2023年度に関する調査(2022年3月)
- 資料9 2022年度卒業生研修先調査(2022年2月実施)
- 資料10 2022年度卒業生調査(案)(2022年9月実施予定)
- 資料20 2023年度以降の新カリキュラム策定のための公開討論会(2022年5月～7月)

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学生アンケートを実施し、臨床実習カリキュラム開発の参考としている。

改善のための示唆

- ・ 教員と学生からのフィードバックの結果を確実に利用して、教育プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 卒業生に対して教育プログラムに関して試験的なアンケート調査を開始している。

改善のための助言

- ・ 使命と学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を確実に分析すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価(IR)委員会では、ディプロマポリシーで定める学修成果の内容が達成されているか検証するために、学生に対するディプロマポリシー達成状況に関する自己評価を2021年度より開始している。
- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より、LMSを活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート（学修状況調査）を開始するなどし、カリキュラム、資源の提供に関して学生の実績を収集し、実際のカリキュラムや教育環境の改善に活かしている。実際の改善事例は7.1に挙げた通りである。
- カリキュラム評価(IR)委員会では2022年度以降、卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的に実施していくことを決定した。

今後の計画

- 卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施により、卒業生の学修成果達成状況やキャリアに関する調査を実施していく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料8 2021年度学修成果達成状況に関する自己評価結果(2022年2月実施)
- 資料5 2021年度学生向け授業評価調査(2021年11月～2022年5月実施分)
- 資料6 2021年度学生向け学修状況調査(2022年2月実施)
- 資料7 2021年度教員向け教育状況調査(2022年3月実施)
- 資料9 2022年度卒業生研修先調査(2022年6月実施)
- 資料10 2022年度卒業生調査(案)(2022年9月実施予定)

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生の実績を分析し、責任がある委員会にフィードバックするためにカリキュラム評価（IR）委員会を2019年度に新たに設置している。

改善のための示唆

- ・ 学生の背景と状況について、学生と卒業生の業績を分析することが望まれる。
- ・ 学生の実績を十分に分析したうえで、学生カウンセリングについて責任がある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より、LMSを活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート（学修状況調査）を開始するなどし、学生の背景と状況に関しても広く収集している。
- 今後カリキュラム評価（IR）委員会では、卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的の実施していくことを決定した。
- 学生カウンセリングに関しては学生面談記録の作成を2020年度より決定しており、問題がある学生の情報は医学部医学科教育委員会にフィードバックされている。今後も運用を重ねていく。

今後の計画

- 卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施により、卒業生の学修成果達成状況やキャリアに関する調査を実施していく。

改善状況を示す根拠資料

- 前項「基本的水準」と同じ

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ カリキュラム評価（IR）委員会に、全学年から学生代表が委員として選出されている。

改善のための助言

- ・ 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会の学生を含む構成員は、独立性を担保すべきである。
- ・ 学生委員が継続して主体的に議論に参加すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- ・ 2022年度以降は医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会に参加する学生委員が重複しないように選出することを決定した。

今後の計画

- ・ カリキュラム評価（IR）委員会に対する学生委員の積極的な参加と発言を促していく。

改善状況を示す根拠資料

資料2 2022年度医学部医学科教育委員会 名簿

資料4 2022年度医学部カリキュラム評価（IR）委員会名簿

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 「名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク」から、卒業生の実績に関する情報を得ている。

改善のための示唆

- ・ 広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- ・ カリキュラム評価（IR）委員会では2022年度以降、卒業生進路先調査・卒業生調査を定期的に実施していくことを決定した。卒業生進路先調査では本学卒業生を雇用している医療機関に対してアンケート調査を実施し、本学の卒業生の強み、弱み、カリキュラムについての意見、卒業生の学修成果達成状況について調査を実施していく。

今後の計画

- ・ 卒業生進路先調査の定期的な実施により、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めていく。

改善状況を示す根拠資料

資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施）

資料10 2022年度卒業生調査（案）（2022年9月実施予定）

8. 統轄および管理運営

8.1 統轄

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価（IR）委員会の役割をより明確に規定すべきである。
- ・ 総合医学教育センターの位置づけをより明確に規定すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 2022年度より、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の学生委員を別に専任するなど、両者の独立性を高めている。
- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より、LMSを活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート（学修状況調査）、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート（教育状況調査）を開始するなどし、カリキュラム評価(IR)委員会のプログラム評価活動がより実質的なものとなっている。
- また医学部医学科教育委員会では、カリキュラム評価(IR)委員会からの提言を受けて実際の改善の取り組んでおり、実際の改善教育プログラム改善活動を通じて両者の役割分担が明確になってきている。

今後の計画

- 引き続き、実質的な活動を通じて、医学部医学科教育委員会とカリキュラム評価(IR)委員会の担う役割を明確にしていく。
- 卒前卒後教育のシームレス化も踏まえて、卒後臨床研修・キャリア形成支援センター教育専任教員の一部教員も総合医学教育センターと兼任になるなど、総合医学教育センターの担う役割がより多様化していくことが想定される。現在は医学科や附属病院とは独立して医学部直属の組織となっているが、その役割や、組織上の位置づけも含めて見直しを行っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料2 2022年度医学部医学科教育委員会 名簿
- 資料4 2022年度医学部カリキュラム評価（IR）委員会名簿
- 資料5 2021年度学生向け授業評価調査（2021年11月～2022年5月実施分）
- 資料6 2021年度学生向け学修状況調査（2022年2月実施）
- 資料7 2021年度教員向け教育状況調査（2022年3月実施）
- 資料8 2021年度学修成果達成状況に関する自己評価結果(2022年2月実施)

資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年2月実施）

資料10 2022年度卒業生調査（案）（2022年9月実施予定）

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育活動を担う医学部医学科教育委員会に、広い範囲の教育の関係者の意見を反映することが望まれる。

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 医学部医学科教育委員会の外部委員の見直しを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 特になし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 特になし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 配分された予算を予算委員会ならびに教授会で透明性を持って配分している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 特になし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 予算委員会と教授会が透明性を持って予算を配分している。

改善のための示唆

- ・ 社会の健康上の要請を十分に考慮して資源を配分することが期待される。

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 資源配分にあたっては社会の健康上の要請も引き続き考慮していく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

8.4 事務と運営

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教育活動の増大に対応して、さらに事務組織を充実させるべきである。

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 事務職員の拡充は昨今の国立大学法人の状況から厳しいが、ICTの活用による業務の効率化や、業務の適切な分配に引き続き努めていく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 国立大学法人評価などの外部評価や名古屋大学内の業務実績に関する現状分析を引き続き継続し、定期的な管理運営の見直しを行っていく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善状況

- 特になし

今後の計画

- 特になし

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域枠学生を含め、愛知県との協働体制が構築されている。

改善のための示唆

- ・ 愛知県、名古屋市など保健医療関連部門とのさらなる協働が期待される。

関連する教育活動、改善状況

- 地域医療教育学寄付講座による地域枠学生教育などを通じて、愛知県との連携に努めている。

今後の計画

- 引き続き、愛知県・名古屋市との協同に努めていく。

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

9. 継続的改良

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 医学部医学科教育委員会に加えてカリキュラム評価（IR）委員会を設置して、教育を見直し、改善する体制を整えている。

改善のための助言

- ・ 今後も継続して課題を特定して、修正すべきである。

関連する教育活動、改善状況

- カリキュラム評価(IR)委員会では2021年度より、LMSを活用した授業評価、学生向けのカリキュラムおよび学修環境に関するアンケート（学修状況調査）、教員向けのカリキュラムおよび教育環境に関するアンケート（教育状況調査）を開始している。
- これらのアンケート活動の実施により、カリキュラム評価(IR)委員会のプログラム評価活動がより実質的なものとなっている。実際の改善事例を以下にあげる。
- 上記アンケートの結果、臨床実習や基礎セミナー（研究室配属）の一部で、ハラスメントと疑われかねない行為があることが判明し、カリキュラム評価（IR）委員会からの提言にもとづき、医学部医学科教育委員会・名古屋大学ハラスメント相談センターと合同で、医学部のカリキュラムに関わる全教員を対象としたハラスメント防止研修の実施に至った。
- 上記アンケートの結果、病院内における学生が使用可能な電子カルテ端末が、新型コロナウイルス感染対策のために、一部使用不可能になったこともあり、台数が限られていることが学修・教育上の問題となっていることが判明した。そのため、カリキュラム評価（IR）委員会からの提言にもとづき、電子カルテ管理委員会および新型コロナウイルス感染対策連絡会議にて協議し、一定の感染予防策の強化の上で、学生用電子カルテ端末の稼働数の増加に至った。
- 2021年度は病院機能評価であるJCI(Joint Commission International)の定期評価も受審し、医学専門教育体制も含めた病院機能についても評価され、前回2018年度受診時よりも大幅な改善が認められているとの評価結果を得た。

今後の計画

- 今後カリキュラム評価（IR）委員会では、卒業生進路先調査・卒業生調査の定期的な実施を予定しており、卒業生やその就職先も含めた本学の教育関係者からの

フィードバックも教育プログラム改善に活かしていきたい。

- また、カリキュラム評価（IR）委員会では、学務課と連携して、入試データや成績データなどの教学データの分析も予定しており、教育プログラムの構造、内容、試験方法などに関する評価を実施していく。
- 上記のようにカリキュラム評価(IR)委員会の機能を強化することにより、今後もカリキュラムおよび学修環境の継続的改良を実施していく。
- またJCIなど定期的に受審する外部評価も定期的な問題点の確認と改良のためのより機会として利用していく。

改善状況を示す根拠資料

- 資料1 2021年度医学部医学科学部教育委員会 議事録
資料5 2021年度学生向け授業評価調査（2021年11月～2022年5月実施分）
資料6 2021年度学生向け学修状況調査（2022年2月実施）
資料7 2021年度教員向け教育状況調査（2022年3月実施）
資料8 2021年度学修成果達成状況に関する自己評価結果(2022年2月実施)
資料37 医学部におけるハラスメント防止研修eラーニング（2022年6月実施）
資料38 名古屋大学ハラスメント相談センターハラスメント講義（2022年7月実施）
資料21 カリキュラム評価(IR)委員会からの提言の資料（2022年2月～7月）
資料17 教学 IRデータに関する取扱いについて
資料9 2022年度卒業生研修先調査（2022年6月実施）
資料10 2022年度卒業生調査（案）（2022年9月実施予定）
資料29 2022年3月 国際医療機能評価「JCI認証」を更新（付属病院HP）

質的向上のための水準： 評価を実施せず

関連する教育活動、改善状況

- 前項「基本的水準」と同じ

今後の計画

- 前項「基本的水準」と同じ

改善状況を示す根拠資料

- 特になし

＝根拠資料一覧＝

冊子資料① 2022年度名古屋大学医学部医学科教科案内 (SYLLABUS)

冊子資料② 2022年度名古屋大学医学部医学科学生便覧

冊子資料③ 2023年度医学への道 (名古屋大学医学部医学科案内)

資料1 2021年度医学部医学科学部教育委員会 議事録 (～2022年7月)

資料2 2022年度医学部医学科学部教育委員会 名簿

資料3 2021年度医学部カリキュラム評価 (IR) 委員会議事録 (～2022年7月)

資料4 2022年度医学部カリキュラム評価 (IR) 委員会名簿

資料5 2021年度学生向け授業評価調査 (2021年11月～2022年5月実施分)

資料6 2021年度学生向け学修状況調査 (2022年2月実施)

資料7 2021年度教員向け教育状況調査 (2022年3月実施)

資料8 2021年度学修成果達成状況に関する自己評価結果 (2022年2月実施)

資料9 2022年度卒業生研修先調査 (2022年6月実施)

資料10 2022年度卒業生調査 (案) (2022年9月実施予定)

資料11 第1回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD (2022年1月実施)

資料12 第2回東海国立大学機構名古屋大学医学部FD (2022年7月実施)

資料13 2021年度東海国立教育連携WG 議事録・活動報告 (～2022年7月)

資料14 岐阜大学との授業連携 (2022年6月)

資料15 2022年度文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材育成養成拠点事業

資料16 2021年度コロナ禍後の医学部教育のあるべき姿に係る調査 (2021年12月)

資料17 教学 IRデータに関する取扱いについて

資料18 2022年度新入生アンケート (2022年4月実施)

資料19 学生を対象とした新カリキュラム2023年度に関する調査 (2022年3月)

資料20 2023年度以降の新カリキュラム策定に関する公開討論会 (2022年5月～7月)

資料21 カリキュラム評価(IR)委員会からの提言の資料 (2022年2月～7月)

資料22 臨床実習に関するインタビュー調査 (医学部附属病院 全診療科)

資料23 臨床実習における診療参加の例

(小児科・血液内科・腎臓内科・総合診療科・外科ユニット)

資料24 臨床実習 (学生向け) アンケート

資料25 2022年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料 (学生用)

資料26 2022年度PBLチュートリアル実施時のオリエンテーション資料 (教員用)

資料27 2022年度PBLチュートリアルオンライン評価に関する資料 (教員用)

資料28 2022年度PBLチュートリアル適切な文献引用について

資料29 2022年3月 国際医療機能評価「JCI認証」を更新 (付属病院HP)

- 資料30 令和4年度一般選抜学生募集要項（ディプロマポリシー掲載ページ）
- 資料31 2021年度男女医師キャリア支援相談部門の活動報告
- 資料32 名大ネットワーク研修病院選択に関するアンケート（2022年2月実施）
- 資料33 名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク
学生・若手医師向けキャリアセミナー（案）
- 資料34 2021年度名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク総会議事録
- 資料35 2021年度名古屋大学病院・関連病院卒後臨床研修ネットワーク指導医講習会
- 資料36 令和5年度以降の医学部医学科一般選抜（前期日程・後期日程）入試の変更
- 資料37 医学部におけるハラスメント防止研修eラーニング（2022年6月実施）
- 資料38 名古屋大学ハラスメント相談センターハラスメント講義（2022年7月実施）
- 資料39 2021年度学生定期面談の記録に関する資料
- 資料40 2022年度 博士課程教育プログラム（MD・PhDコース）
- 資料41 2021年度学生研究会 活動実績
- 資料42 2021年度 学生研究会ラボッアーアンケート
- 資料43 教育専門家による研究「アウトカムベースの医学教育の実施のための
一般的なルーブリックの局所的適応:混合方法アプローチ」
- 資料44 国内大学と連携「基礎医学研究者養成イニシアチブ・ラボッアー支援」
- 資料45 2021年度名古屋大学医学部における国内連携
- 資料46 医学英語講義に関する資料（2022年度シラバス抜粋）
- 資料47 医療英語研修に関する資料（2021年5月開催レポート）
- 資料48 国際研究カンファレンスへの参加に関する資料（高麗大学プログラム）
- 資料49 USMLEオンラインセッションに関する資料（ウェブサイト抜粋）
- 資料50 モナシュ大学主催医学部サマーキャンプに関する資料
（Global Alliance of Medical Excellenceサマースクールフライヤー）
- 資料51 2021年度海外協定大学の追加に関する資料（協定内容）
- 資料52 学部生向け討論会の資料（中川氏講演会__2021年9月開催）
- 資料53 学部生向け講演会の資料（在米医師講演会__2021年6月～8月開催）
- 資料54 教員向け国際交流に関する協議会に関する資料
（全国医学部国際交流協議会2021年11月__チラシ）
- 資料55 2021年度派遣留学中止に関する資料（派遣人数データ）
- 資料56 （案）2023年度2年生2024年度3年生時間割
- 資料57 臨床研究教育学講座（名古屋大学医学部HP）